

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 8月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4676900113号
法人名	医療法人 共生会
事業所名	びろうの樹
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉6166-6 (電話) 099-474-0033
自己評価作成日	平成25年 7月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年8月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「楽しく生活できるようにお手伝いします」「地域の方との触れ合いを大切にします」「いつまでも安心して過ごせるように対処します」を理念に掲げています。

法人内に医療機関や特定施設等の事業所があり、利用者の希望や必要に応じて多様なサービスを受け、選ぶ事が出来る。  
また急変時や事故に対しても迅速で適切な対応がとれる体制を構築している

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

志布志市の郊外、国道220号線を少し山側に入った閑静な集落に建てられているグループホームである。広い敷地ではポニーやヤギが飼育され、菜園、鶏舎もあり、自然を活かして利用者はゆっくりとしたスローライフを送っている。運営母体が医療法人であるため、日常の健康管理はもちろんのこと、緊急時における医療体制も整い、看護師も配置されて本人・家族の思いや意向に沿った看取り支援にも取り組んでいる。

地域交流においては、自治会に加入して、清掃や集落の集会などに職員が参加して積極的な交流活動を行い、利用者も自治会主催の敬老会に参加するなど事業所自体が地域の一員として受け入れられている。

法人は職員育成にも力を入れており、資格取得に向けた支援が行われ、現在、介護福祉士9名・ケアマネージャー1名・看護師1名と知識と経験が豊富な職員が多数確保されている。また、ほとんどが正職員で労働条件が整い、法人内の異動はあるが、離職は少なく職員間のコミュニケーションが図られている。

開設して13年目にあたり、志布志市では中核的な存在のグループホームとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどで理念の確認を行い、理解・周知をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえたグループホーム独自の理念を職員の意見を集約して作成している。日常のケアで職員間の統一が図れなくなったときの判断材料として確認する機会を都度設けて理念の共有と実践に繋げている。理念は玄関・フロア・事務室に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、清掃や集落の集会、敬老会に参加し、運営推進会議・防災訓練などにも出席頂き交流を図っている。	自治会に加入して職員が清掃活動や集会などに積極的に参加して交流に努めている。また、地域の敬老会に利用者が参加するなど利用者と地域の方々が交流し合える機会もある。中学生の職場体験・高校生の実習の受け入れなど、子ども達との交流の機会もあり、毎月、認知症サポーターの来訪もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	中学生の職場体験や高校生の実習等を積極的に受け入れ、認知症の方の理解を深めて頂ける様取り組んでいる。集落の集まりなどにも参加し質問などに答えたり出来る範囲で対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の頻度で民生員、家族、行政等が参加し、運営推進会議を開催、利用者の日常生活を写真等で紹介したり、活動の内容、事故等の報告をして外部からの意見を聞き参考にしていく。	運営推進会議は2カ月に1回、民生委員・認知症サポーター・駐在所員・家族・利用者・行政等の出席を得て定期的に開催している。幅広い分野の参加者からの意見や助言などが出され、サービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携を図りサービスの向上に努めている。	運営推進会議の他に市主催の研修会や認定更新機会等にプランの見直しの相談や情報交換をして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して職員が理解し拘束のないケアに取り組んでいる。研修への参加や自施設内で勉強会を開催し、行動に表れる原因の追究を行い、全スタッフが知識と理解を深め身体拘束廃止に努めている。玄関の施錠は夜間のみ行っている	契約書に「緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限しません」と明記され、玄関にも「身体拘束排除宣言表」が貼付してある。定期的な勉強会と日常の業務で疑問点や問題点があがったら都度話し合う機会を設けて禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を元に勉強会を行い、学んだ内容を業務に活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を実施し各スタッフが理解に努めている。必要に応じて専門家（行政書士）から助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取り十分な説明を行っています。普段から話しやすい環境を心掛け、家族とのコミュニケーションを図っている。また、不安・疑問についてはその都度お答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族からの意見や申し入れ等があった場合は、カンファレンス等にて検討をし、ホームで対応できるところは速やかに行い、検討が必要な場合については、法人内での改善が出来るように報告を行っている。	日頃より、家族が職員に対して意見等を表しやすい雰囲気作りに努めており、面会時や電話連絡の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については職員間で検討して改善やサービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンス以外にも意見を言える場を設け、その都度必要な意見を反映できるようにしている。	毎月、全職員参加のミーティング・カンファレンスで意見交換や話し合いを行っている。職員から出された、意見・提案等は業務やサービスの質の向上に反映させている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表により自己評価、管理者の評価を受け、重要な意見として活かしている。		

鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を積極的に進め、ミーティング等で報告を行い毎月のグループホーム内の勉強会も行っている。全スタッフの知識を共有しケアの向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・大隅地区のグループホーム協議会に所属し、交流を図っているが、交流自体が不足している。実践者研修などの他施設実習を活かし連絡を取れる関係作りを行ってる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人・家族と面談を行い、これまでの状況や今後の意向を聞く事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際、家族の意向・悩み不安な思いを傾聴し、関係構築ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの際、本人・家族の要望と意見を聞き、必要としているサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や悩み・喜び等を共感し理解するように努め、共に考えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってより良い暮らしが出来るように、ご家族の意見を伺いながら、様子伺いの電話や、年賀状、暑中見舞いを一緒に書き、お互いのより良い関係作りを目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域の行事等に参加し、通い慣れた美容室に行けるよう支援している。外出の難しい方には、通い慣れた美容室の店主が訪問してくださったりしている。	地域の敬老会、馴染みの理美容室の継続、友人宅訪問、お墓参り、自宅周辺や以前の職場周辺へのドライブなど個々の希望や訴えに応じて関係が途切れないように支援している。また、友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮して、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性などを把握しスタッフが仲介役となって利用者同士が良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて家族の方の相談を聞く等状況を見ながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や表情から意向や希望を汲み取り小さな事でもスタッフ間で共有し対応するようにしている。	会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。また、利用者の訴えや思いなど拾い出せた情報をフェイスシートに記録して職員間で情報を共有し今後役に立つようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの活用及び本人・家族・個別担当者・ケアマネジャーを通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、スタッフ間の情報交換を密に行い、現状の把握に努めています。又必要に応じ専門職の方から意見等を頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の様子の把握を行い、担当者会議を通じて、日頃の様子を職員から聞き、本人・家族の希望（ニーズ）に合わせたプランの作成に努め、活動に活かしている。	本人・家族の意向をくみとった上で担当者を中心にスタッフ間で協議し利用者本位の介護計画を作成している。日常生活で変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても3カ月ごとにモニタリングを実施し、見直しに活かしている。	



鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有しそれを元に毎日のカンファレンスの中で検討し方針を話し合い、介護計画書への反映にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応できるよう柔軟な支援を心掛け、状況に応じた支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や介護サポーターの受け入れ、民政員やボランティアなどを通じ、利用者が地域で安心して生活できるよう支援していきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が毎週木曜日に往診をして頂いており、日々の変化なども報告し、適切な医療を受けている。又家族の希望に添えるように支援している。	ほとんどの利用者が母体医療機関がかかりつけ医となっており、主治医の定期的な往診で健康管理が密に行われている。他科受診についても連携を図って適切な医療が受けられるように支援している。通院は基本は家族同行であるが、状況に応じてホームでも受診同行を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、看護師へ相談又はカンファレンスに同席し、情報交換や相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護目線、医療的情報など主に看護師が母体の病院関係者と情報交換を行い、利用者の状態・状況に合わせた支援が取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、家族同席のもと説明を行っている。本人の状況を踏まえながら病状の説明を行うと共に主治医や家族の協力を得ながら支援している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成して入居時に説明している。入居後は主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでに本人、家族の希望による看取りの経験もあり、職員も方針を共有してチームとして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、初期手当ての方法も含め、知識及び技術の向上に努めている。		

鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方、家族、消防の協力を得て、避難訓練を年2回実施している。また市主催の津波等災害の避難訓練にも参加している。	年2回夜間想定で避難訓練を行っている。外部者に分かるように居室の入り口に身体状況を明記したカードを下げて迅速な対応ができるように工夫されている。訓練には近隣住民、家族参加も得られており、気づきなど安全対策に活かしている。また、地域の緊急連絡網にも登録されている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室があり、スタッフが入室する際は、声かけを行っている。また利用者を尊重した声掛けを行っている。	個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。法人内研修やホーム内でも機会を捉えては話をし、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、好みや思いを把握し、介護側主導にならない様に、問いかける事で、本人が選択できるようにように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどうされたいのか？言葉や行動を注意深く観察し、一日の行動を制限することなく、過ごしやすい生活が行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝自分で出来る方は自分で整容され、手伝いが必要な方は必要な部分の支援を行い、自分の好みのおしゃれに配慮・支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の感想を聞き、週一回（火曜）給食会議を開催し、利用者の嗜好調査や感想を参考にしている。食後の机拭きやお盆拭き・米とぎや皿洗い等、各自が役割を持って行っている。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共に行っている。また、梅干し・そばうち・あくまき・もちつきなど利用者のアドバイスをもらいながら行っている。お弁当持参で季節の花見に出かけたり、中庭でお茶や食事を楽しむこともある。茶碗・コップ・はしは個々に準備してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスに関しては、管理 栄養士作成した献立を用い、助 言を頂いている。水分量につい ては毎日集計を取り、摂取量の 少ない方については、形態や嗜 好の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行って頂 き、介助の必要な方については 毎食後介助を行っている。又、 歯科医の往診の際、助言も頂い ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排泄チェック表からパターンを 読み取り、適時のトイレ誘導・ 言葉掛けを行い、トイレでの排 泄を促している。	身体状況に問題がない限り、日中は トイレでの排せつを支援している。 現在自立している利用者も数名お り、維持できるように職員のさりげ ない声かけや誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	確実な水分摂取（ゼリーなども使 用）朝一番の牛乳、個々に合った運 動を行い、便秘にならない工夫と生 活リズムを促している。それでも便 秘の方には看護師・医師に相談する 事で個々に合った下剤の種類・量を 判断して使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の順序や時間・温度・入浴剤等希望に添えるように配慮しながら、その都度聞きながら対応している。	基本は一日おきであるが、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。自立している利用者もあり、職員の見守りで安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄の生活環境に出来るだけ近い形での入床が出来るよう努めている。又、照明・室温にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス・ミーティング等の時間に看護師からの説明があり、スタッフの周知徹底を図っている。又、症状の変化の確認等看護師と共に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ここで生活していく楽しみや、居心地の良い場所として感じて頂ける様に、利用者とできる事を一緒に行い充実した日々が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び本人の体調が良い時は屋外へ動物を見に散歩を行っているが、施設外への外出の機会はまだまだ少ないですが、法人内の託児所などの外出は楽しみにされています。今後も短い時間でも、外出の機会を増やせないか検討していきたい。	個々の気分や天候に応じて、敷地内の散歩や外気浴を行っている。また、個々の希望や楽しみ事でドライブや買い物などにも出かけている。花見の季節には弁当持参で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分が自由に使えるお金を持つことが心の支えになったり、不安が解消する事を理解し、外出時は、スタッフと共に買い物を楽しめる支援を行っている。御家族にも少額のお金を預けて頂ける様に声をかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望や様子を見ながら必要な時は電話をかけたたり、定期的な写真付きの新聞や年賀状、暑中見舞いを一緒に作成し家族に送る事によりここの生活の様子や近況報告を行っている。文字を書く事の支援も日々行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人が安心・安全に生活して頂ける様に環境整備に努めると共に、清潔な環境で生活して頂くため、掃除も毎日行っています。また季節の花や祭事の飾りつけをし季節を感じれる様に工夫しております。	明るく家庭的で、広々としており生活感や季節感がある共用空間となっている。ユニット間の行き来も自由に出来、中庭もリビングから直接出入り出来るので開放的である。台所もオープンで食事の準備の光景やにおいなどは生活感を与えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりとくつろげる様に、長椅子を用意し、そこに座りながら音楽を聞いたり、テレビを見たり出来るように工夫している。		

鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活様式が異なるので、本人・家族に相談して本人にあった居室作りを行っている。	ベッドとタンスは備え付けとなっているが、馴染みの物品や家族の写真などが飾られて居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、洗面、浴室の場所を明確にして利用者が迷う事無いよう配慮している。また利用者の状況や要望に応じて臨機応変に対応できるように取り組んでいる。		



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 びろうの樹グループホーム 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない